

茨木市立三島中学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和5年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

(領域ごと)

①言葉の特徴や使い方に関する事項	概ね良好な結果であった
②情報の扱い方に関する事項	概ね良好な結果であった
③我が国の言語文化に関する事項	概ね良好な結果であった
④話すこと・聞くこと	概ね良好な結果であった
③書くこと	良好な結果であった
④読むこと	概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式	概ね良好な結果であった
②短答式	概ね良好な結果であった
③記述式	概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)・もっとも正答率の高い問題…2一の「落胆する」の意味を問う問題。3三の見出しを付け、根拠を明確にして解説文を付ける問題。
・もっとも無解答率が高い問題…4三の文章の構成や展開・表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる力をみる問題。

分析

- 1 傾向: 無解答率が低く、あきらめずに取り組み続けることができる。応用力がある生徒が多く、記述式の問題もほぼ全国平均よりも正答率は高かった。
- 2 成果: 見出しを付けたり、根拠を明確にして解説を付ける問題の正答率が高かった。学習した内容から身近な課題や出来事に対して考えさせることで、生きた国語力を意識してきた結果であると考え。
- 3 課題: 3二の基礎的な漢字を書くことの正答率が低い。記述問題については正答率が高かったが、無解答率もやや高かった。基礎的な知識が定着していないことがわかる。
- 4 授業での重点的な取組み:
設問に対して個人で考えたあと、班学習で意見や考えを共有することで、多様な意見を取り入れ、自らの思考を深める授業を心がけている。また、教科書の内容から身近な課題や生活を見つめさせ、生きた国語力を身に付けさせるよう、取り組んでいる。

(領域ごと)

- | | |
|---------|-------------|
| ①数と式 | 良好な結果であった |
| ②図形 | 大変良好な結果であった |
| ③関数 | 良好な結果であった |
| ④データの活用 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 大変良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

もっとも正答率の高かった設問は、「はじめの数11のとき、はじめにかける数が2、たす数が3のときの計算結果を求める」という、「問題場面における考察の対象を明確にとらえることができるかどうかをみる」問題であった。

分析

1 傾向

全体的に無解答率が低く、選択式の問題だけでなく、短答式や記述式の問題にもあきらめずに取り組んでいることが分かる。問題文から、問題の本質を読み取り、求めるものを正確に答える力がついてきていることが分かる。

2 成果

2年生で数学の授業を「文字式」と「図形」の2つに分け、1年間を通して図形を学習するカリキュラムを実施した。3年生でも同様の学習カリキュラムを組んだことで図形の分野に関する定着を見ることができた。

授業内の教えあいを通して、問題文の読み取りから考え方を共有してきたことが、問題理解や解釈、また計算力向上につながったと考えられる。

3 課題

資料の活用での根拠を示しながらの説明や、整数の説明問題については無解答率が他の問題に比べては高い。数学的用語を活用して説明することが課題であるため、授業内で生徒の発言を数学的用語に置き換える。発言の中で数学的用語がでた場合は、取り上げるなど数学的用語を授業内でより身近なものにしていくよう取り組む。

4 授業での重点的な取り組み

毎日の宿題プリントで、数と式、方程式、関数、図形のそれぞれの分野から基礎基本的な問題から、発展問題を出題し、授業で扱っていない分野の学習も継続してできるように取り組んでいる。

○●英語●○

(領域ごと)

- | | |
|-------|-----------|
| ①聞くこと | 良好な結果であった |
| ②読むこと | 良好な結果であった |
| ③書くこと | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった問題は、リスニングの「状況描写の英語を聞き、その内容をもっとも適切に表している絵を選ぶ」問題であった。
- ・もっとも正答率が低かった問題は、ライティングの「学校生活の中から」紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある英文を書く問題であった。

分析

1 傾向

- ・ライティングの問題では、無解答率が高かったが、全体的には無解答率は低い傾向にある。また、全体をととして、正答率が全国・大阪府平均に比べて良好な数値となった。
- ・「話すこと」調査において、1問も正答とならなかった生徒の割合が全体の半数以上いることから、他の力に比べて正答率が低い傾向がある。

2 成果

- ・帯学習でトレーニングしている領域(リスニング)に関しては、特に高い正答率となった。

3 課題

- ・授業でのトレーニングが十分ではない領域(ライティング)に関しては全国や大阪府の平均正答率より高いが、今後も改善が必要である。また授業内や家庭学習でどのように補うかが課題として考えられる。
- ・「話すこと」調査において、文字ではなく音のみから聞き取る情報を整理し、自分の考えを伝える思考や即興力が低いことが明らかになった。授業内で英作文のみならず、文字を見なくても自ら答えを考え、即座に返す活動を積極的に取り入れる必要があると考えられる。

4 授業での重点的な取組み

- ・帯学習、反復練習、班活動に取り組んでいる。教科書の内容が他教科の領域を含む題材を多くあつまっていることから、教科横断型の授業も実施している。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

全体の平均正答率については、ここ数年大きく変化する事がなかったが、今年度は、どの教科も昨年度より大きく上回る結果であった。

また、無解答率に関してはこの数年の無解答率の平均と同等程度の結果となった。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

学力高位層は、この数年横ばい状態であったが、昨年度より大きく増加した。

学力低位層は昨年度より若干減少している。エンパワー層に関しては昨年度よりも大きく減少している。

今後もさらに、エンパワー層や学力低位層の減少に向けた学力向上に関する取り組みを行う。

〇●取り組み●〇

学力向上に関する取り組み

1 基礎学力の定着

① 単元テストの実施

・教材や単元を学んだあとにチェックすることで、学習の定着を短い間隔で確認し、授業やそのあとの教科指導に生かしていく為に、行事等を除いた約2週間に1回の頻度で単元テストを行う。

②「個人 ⇒ ペア・グループ ⇒ 班 ⇒ クラス ⇒ 個人の振り返り」の流れで授業を行うことにより、インプット、アウトプットを意識する。

③「学習 ⇒ チェック ⇒ 振り返り ⇒ 定期テスト」の学びのサイクルをまわすことで基礎学力の定着を図る。

2 言語活動の充実

学習班と生活班は同じ(4人または、5人班を基本としている)とする。

・「個人⇒ペア・グループ⇒班⇒クラス⇒個人の振り返り」の流れでの授業の実施。

⇒単元、または授業で、上記の流れのように「学び」や「考え」や「意見」を共有することを意識し、授業を展開していき、交流を通して言語活動を充実させる。

3 授業方法・内容の工夫と改善

①生徒が主体的に参加する授業づくりを目指し、教科会等で研究する。

・生徒が主体的に「学び・考え・つながる」授業を目指す。また、教科会議で授業の進捗を含め、授業の内容や評価方法・基準について交流し、研究する。

②「教師が教える場面」と「生徒が学ぶ場面」の使い分けを意識する。

・講義型のみではなく、個人で思考する場面や、対話の中で学ぶ場面などを設け、授業力の向上を目指す。

4 学校全体としての取り組み

①「授業時の約束」を教職員と生徒で徹底する。

・1. チャイムと同時に挨拶で授業を開始する。2. 「聴く」という姿勢を大切にする。3. 「学習目標」「本時の流れ」を掲示する。4. 学びのステップの活用を意識する。5. 挨拶で授業を終了する。

②「知る」「考える」「伝える」の「学びのステップ」を意識する。